

<高年齢労働者社会医学領域について>

指導教員：財津 將嘉

高年齢労働者社会医学は、高年齢労働者の増加に伴う労働災害の予防と産業構造の変化による新たな課題に対応することを目的とする。高年齢労働者の安全・健康確保というテーマは、産業保健のみならず幅広い社会医学の知識と技術が必要であり、多岐にわたる分野との横断的な協力が必要である。また、エビデンス構築の加速が必須である分野である。そのため、「特論」では高年齢労働者に係る産業保健施策の目的、諸概念、活動の現状や広がり、課題を理解し、「実習」では自らの研究テーマへの取り組み、「演習」ではプレゼンテーションの技術を身につけ、「論文指導」では論文作成および論文発表を通じて、研究に必要な能力及び科学者としてのアカデミックな能力、実務に活かせる応用力を修得する。産業保健領域のリーダーとして、科学的根拠と現場の顕在的・潜在的ニーズ及び対応を踏まえた高年齢労働者への必要な対策を計画し実践する力を身につけ、科学者としてのリサーチマインドを修得する。

<産業衛生学専攻博士前期課程への入学を希望される方へ>

1. 研究テーマについて

高年齢労働者社会医学領域で想定される研究テーマは以下の通りです。

- 職業ストレス、生活習慣や行動様式、免疫機能が媒介する、がんや循環器疾患リスクの社会格差（職業、収入、教育）
- 臨床データ、癌登録、カルテデータ、健診データやレセプトデータを用いた臨床疫学と産業医学を融合した研究
- 少量飲酒や加熱式タバコのリスクの研究
- 既存インターネットコホートデータや大規模疫学データを用いた臨床社会疫学研究
- 大規模労働災害データを用いた行動経済学に基づいた疫学研究
- AI 画像動作解析とスポーツサイエンスを用いた労働災害の予防

2. 受け入れ要件の目安

一般入学者および週1日程度の対面指導が可能な社会人入学者については、受け入れ要件はありません。

一方、主にリモートでの指導を前提とした社会人入学を希望される場合、2年間の修学期間で必要な成果を確実に上げるために、以下を受け入れの目安としています。

以下の項目のうち、2つ以上の項目を満たすこと

- 想定される研究を行うことができるフィールドを確保できている。
- 想定される分析手法を理解している。
- 何らかの学術論文を執筆した経験がある。

必ずしもオリジナルデータを収集する必要はなく、希望者の研究テーマに沿っていることを前提に研究室にあるデータを活用した研究も可能です。オリジナルデータを収集する

場合には、上記の条件に加えて、明確な研究テーマがあることを希望します。

問い合わせ先：高年齢労働者産業保健研究センター 代表メールアドレス
kousanken@mbox.med.uoeh-u.ac.jp